

生田緑地における大型ヤガ科 Noctuidae の記録

横田光邦*・三田村瞬*

A record of large Noctuidae in Ikuta Ryokuchi Park, Kawasaki City.

Mitsukuni Yokota* and Shun Mitamura*

はじめに

近年の温暖化の影響で南方系大型ヤガの拡散(北上)が各地で記録されていて、生田緑地でも今まで記録がなかった種を2023年より確認している(横田・三田村, 2024)。大型のヤガ科 Noctuidae が2024年にも3種確認できたので報告する。

採集記録

(1) ムラサキオオアカキリバ *Rusicada leucolopha* Prout, 1928
[多摩区] 1ex., 多摩区長尾, 6-XI-2024, 三田村瞬確認; 6exs., 多摩区枳形, 30-XI-2024, 横田光邦・三田村瞬採集

本種の分布は北海道南部から九州北部と広範囲である(岸田, 2011)。神奈川県内では、箱根町で2011年(中島・坂本, 2018)、相模原市で2022年(森づくりフォーラム, 2023)の2例が知られているのみで、川崎市からの記録はなかった。

筆者の一人の三田村が、11月6日に生田緑地ばら苑にて糖蜜採集を行った際に1個体を確認した。その後、筆者らが11月30日に生田緑地の城山尾根で糖蜜採集を行ったところ、5個体が飛来した(図1)。同日、ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. var. *japonica* (1783) の熟した実を吸汁する1個体も確認した。



図1. 城山尾根の糖蜜に飛来したムラサキオオアカキリバ

(2) ツキワクチバ *Artena dotata* (Fabricius, 1794)

[多摩区] 1ex., 多摩区枳形, 30-XI-2024, 横田光邦採集

[宮前区] 1ex., 宮前区初山, 31-X-2024, 三田村瞬採集

本種の分布は、北海道から南西諸島と広範囲である(岸田, 2011)。定着しているのは温暖な地域で、関東以北では飛来してきているものと推測される。神奈川県内では、伊勢原市、山北町、湯河原町からの記録はあるが(中島・山本, 2004; 中島・坂本, 2018)、川崎市からの記録は今までなかった。

筆者の一人の三田村が、10月31日に生田緑地内のおし沼広場で糖蜜採集を行ったところ1個体が飛来した(図2)。その後、筆者らが11月30日に生田緑地の枳形山広場で糖蜜採集を行ったところ、1個体が飛来した(図3)。

前翅斑紋には個体変異があり、図2と図3を見比べてみると、同種であることを疑ってしまうほど相違している。



図2. おし沼広場の糖蜜に飛来したツキワクチバ

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation



図 3. 枳形山広場の糖蜜に飛来したツキワクチバ

(3) ルリモンクチバ *Lacera procellosa* Butler, 1879

[多摩区]1ex., 多摩区枳形, 30-XI-2024, 横田光邦採集

本種の分布は関東地方南部から南西諸島と広範囲である (岸田, 2011)。神奈川県内では、平野部から山地まで広範囲で記録があるが、山間部に多く、川崎市では麻生区と中原区で 1997 年の記録がある (中島・山本, 2004; 中島・坂本, 2018)。

筆者らが 11 月 30 日に生田緑地の城山尾根で糖蜜採集を行ったところ、1 個体が飛来した (図 4)。



図 4. 城山尾根の糖蜜に飛来したルリモンクチバ

おわりに

採集した個体は新鮮なものが多く、遠方から飛来し近隣の地域で世代交代をした可能性がある。

ムラサキオオアカキリバの食餌植物はアオイ科 Malvaceae のシナノキ *Tilia japonica* (Miq.) Simonk. (1888) が知られている (岸田, 2011)。多摩区川崎市緑化センターには

シナノキが植栽されている (MOMO, 2018) など、市内にはシナノキ属 *Tilia* の植樹が見られることから、それらで一時的に発生した可能性がある。

ツキワクチバの食餌植物はブナ科 Fagaceae のアラカシ *Quercus glauca* Thunb. (1784) やマテバシイ *Lithocarpus edulis* (Makino) Nakai (1916) であり (岸田, 2011)、生田緑地内にも多く植栽されていることから、これらで発生した可能性がある。本種は晩秋の個体でも良く産卵し、卵は越冬することなく孵化する。幼虫は食餌植物の新芽を食べることから、関東付近での冬季の成長は不可能であると考えられたため、越冬態を持たない多化性の南方系種であると推測される。

ルリモンクチバの食餌植物はマメ科 Fabaceae のジャケツイバラ *Biancaea decapetala* (Roth) O.Deg. (1936) であり (岸田, 2011)、川崎市内でも河川沿いなどで見られることから (菅生台自治会, 2023)、これらで発生した可能性がある。

引用文献

- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416 pp., 学研教育出版, 東京.
- 特定非営利活動法人森づくりフォーラム (編), 2023. 人工林の多様性を高める森づくり フォレスト 21 “さがみの森” 2020-2022 実践レポート. 41 pp., 特定非営利活動法人森づくりフォーラム, 東京.
- 中島秀雄・阪本優介, 2018. チョウ目 (ガ類). pp. 702-831, *In: 神奈川県昆虫誌 2018 III*. 1038 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中島秀雄・山本光人, 2004. チョウ目 (ガ類). pp. 907-1158, *In: 神奈川県昆虫誌 2004 III*. 1336 pp., 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 横田光邦・三田村瞬, 2024. 川崎市におけるヤガ科 2 種の記録. 川崎市青少年科学館紀要 第 34 号: 17-18.

インターネット情報

- MOMO, online. 「野山の草花・木々の花」植物検索図鑑. 2018. <http://momo1949.3zoku.com/cgi/plantsdb/start.cgi?m=TableViewer&c=1&p=44> (accessed on 2024-December-27).
- 菅生台自治会, online. 自治会あれこれ. 2023. <http://sugaodai.cocolog-nifty.com/blog/2023/04/index.html> (accessed on 2024-December-27).